

救急車利用の意識調査

救急車の出動台数は年々増加しています約 483 万件(2003 年)→約 764 万件(2023)。救命士の増加および、自治体の努力により救急隊・救急車の配備数は多少の増加が見られるものの、それでも昔に比べて到着までの時間や病院収容までの時間は延長傾向（現場到着:6.3 分→10.3 分、病院到着まで:29 分→約 40 分）です。しかし、受け入れの病院数やそこに従事する医療者は搬送増加に追いついていません。高齢化も進んでおり、需要が増えているのも事実ですが、それでも救急車で来院した患者の約半数は帰宅となっているのが現状です。

『救急車の適正利用』という言葉はお聞きになったことがあると思いますが、そもそも『適正利用』って何でしょう？総務省消防庁の HP を参照すると「緊急度を評価する」と記されており、緊急度とは「時間経過が生命の危険性を左右する程度」と説明されています。

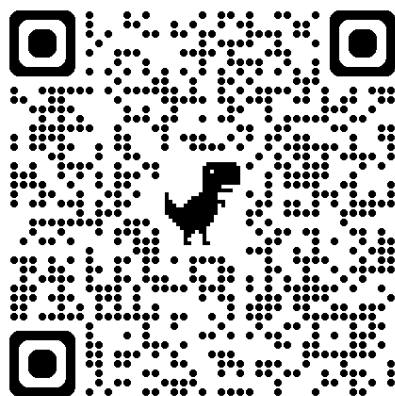
結局、適正利用って何でしょう？

本アンケートが適正利用の解釈の一助や適正利用自体の広まりとなり、重症者の搬送時間が短くなり、予後上昇に繋がればと思います。

無記名のため提出後には同意撤回をしかねます。

回答所要時間は 5-10 分程度です。よろしくお願いします。経験を元にした回答を求めることがあり、心的ストレスを感じてしまうかもしれません。その場合、回答途中で辞めてもらって構いません。

本研究は豊田厚生病院の治験審査委員会の承認(2024-ST44)と施設長の許可を得て実施しています。



家族、友人（成人）など病院外の方々にもどんどん広げてください。

写真を撮って拡散お願いします。

アンケート期限：2025/12/31

<https://forms.gle/VB5WFBR2vhqVYuYc7>

JA 愛知厚生連 豊田厚生病院
救急科 竹村元太